

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	からしだね(放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 2日		2026年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2026年 2月 2日		2026年 2月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 9日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員以外の人との交流	地域社会とは離れている(500m以内に住宅はない)ので地域の人々との交流は望めないが、同一敷地内には教会を含む高齢者デイサービスから保育園まであるので、この人的環境を生かして子ども達の成長に繋げる支援を行う。	特別な計画をするのではなく、さまざまな人々のごく自然な出会いの中で生まれ日常から生まれる成長体験を積み上げる喜びをともに味わう。
2	安心して過ごせる場所	子ども達が安心して過ごせるよう畳やソファ、集中して勉強ができる個室等、活動目的や心身の成長に応じて部屋の配置を工夫している。	一部屋に障害種別の違う子ども達がいるので、怪我などの安全面にも留意し、改善ができる所について検討する。
3	個別対応での支援	可能な限り1対1で支援できる体制をとっていることで、日々信頼関係を築くなかで、子ども一人ひとりの成長を発見し、課題を抽出することができる。日々の様子や支援内容を個別ノートに記録・共有し、支援が必要な課題については毎月のMT等でチームで検討する。	ICTの導入を検討する。連絡帳や個別の記録等を積み重ね、支援の質を深めるツールとして活用する。個別支援計画書検討委員会で、担当者や利用児当事者の意見を取り入れ反映させることで、子どもの利益を守る。
3	保護者同士の交流の機会	「からしだねオープンハウス」を月1回開催している。保護者と職員、保護者同士の情報交換を大切にしている。	引き続き「からしだねオープンハウス」を開催する。保護者、利用児のニーズを把握し、支援に活かしていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	障がいのない子どもとの交流	特別支援学校に通学しているので、家族以外では障がいのない人と交流する機会が少ない。	同一法人が同じ敷地内で運営する森の学園(小学生、中学生)の生徒を招いてのお誕生会等の行事を引き続き行う。教会学校への参加を促し、さらに広い交流の機会を設ける。
2	活動スペース	施設内でしか活動をしない日々の歩みであると社会性を育む経験を積み重ねることが出来なく、将来困ることが起きてくる。	同一敷地内のマナ愛児園や森の学園の子ども達とグラウンドや畑で交流したり、隣接するイオンモール土浦への買い物等を通して社会性を育む機会を設ける。
3	学校卒業後の移行支援	利用児本人が得意なこと、伸ばしていきたいこと、将来「なりたい姿」を子ども達に考えてもらう。スモールステップで利用者の成長をサポートできるよう目標を立て、実際の日々の支援に組み込んでいく。	本人の得意なこと、伸ばしていきたいことを職員で話し合い、それを本人の強みとして「なりたい姿」を目指せるように、共通した目的意識をもって支援にあたる。
3	他事業所との連携	相談支援事業所が担当者会議を開催してくれない。	他事業所と連携した支援の必要性を相談支援事業所に自覚してもらう必要がある。